

Business & Technology

日刊工業新聞

ドイツに技術を提供

新興金型 知的所有権ビジネスも

新興金型製作所（東京都品川区旗の台3の14の5、社長竹内宏氏、☎03・3785・7800）は、世界的に有名なドイツのプラスチック成形機メーカーへ技術供与を行う。竹内社長は、このメーカー側から招待を受けており、来月にはドイツを訪問する。

成形機や加工機器などの分野では、まさに本場といえるドイツへ技術提供を行うことは極めてまれなケースである。文字どおり世界へ羽ばたいたこといふのも。

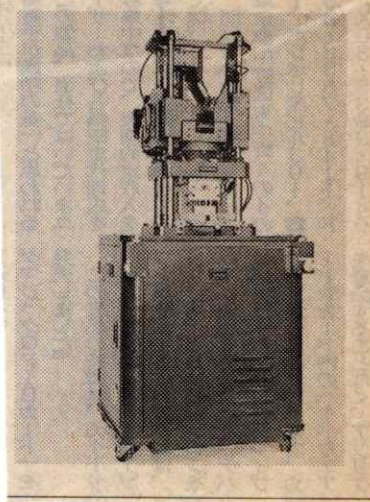
同社は昭和四十七年の設立。プラスチック金型と各種金型製作をはじめ、合成樹脂成形加工、金属加工およびこれらに付帯する一切の事業を行い、国内一流電機メーカーとの取引を持つ。

加えて、関連会社の新興セルビックは、新製品の開発を主に手掛け、これらの製品や技術に関する特許や意匠、実用新案などを内外に多数所有しており、知的所有権ビジネスも行っている。さまざまな新製品は竹内社長自らも参加する技術開発集団

「アイデア工房」の提案による製品化が少なくない。

「金型製造経験者は新製品開

発には有利な位置にいます。父親が経営していた金型工場を二代のころから手伝っていますか



ら、モノづくりについて回る悩み、苦しみはよくわかります」と竹内社長。

ユーザーから喜ばれたという一心で昭和六十二年に開発したのが、ユニット金型『コマンドシステム』。同製品は「必要な時に必要な製品を、そして作って渡す」というジャスト・イン・タイムの思考で生まれたカセットタイプの金型だ。

単に金型のコストダウンという小さな枠からでなく、グローバルな視点からモノづくりを見つめており、生産拠点の海外シフト政策が推進される中で、その有効性が生きてくる製品だ。これにより流通や関税の問題がクリアされ、世界各国のユーザーに安心して使用されている。

一方「受注難と国内の高い製造コストにより、これからは金型專業だけで生き残ることは困難。金型技術を生かした生産を見つめることが大切」という。この発想から、昭和六十二年に少数個取り金型内『ゲートカットユニット』を製品化、さらに平成五年には、成形能力が七十五ト、小型従来比五分の一、タテ型のプラスチック成形機『メイキングファイター・BeV。L200』を発売した。

これにより同社は、金型から成形機までを、トータルの生産システムで行うスタイルを確立した。同製品は、今年六月から出荷を始め年内十数台の売り上げが見込まれている。